

■フランス：Engie、今後数年内に石炭火力発電から撤退へ

2016年5月25日付報道によると、フランスの大手エネルギー会社EngieのコシエールCEOが、今後数年かけて全世界において石炭火力発電から徐々に撤退する考えを明らかにした。同日開催された仏上院の委員会で発言したもの。同社はこの数カ月間にベルギーや英国で約160万kWの石炭火力発電所を既に閉鎖しており、現在、豪州のHazelwood褐炭火力発電所（150万kW、72%を出資）の閉鎖または売却を検討しているという。残った石炭火力発電所についても一つずつ評価を行うとしており、閉鎖や売却だけでなくバイオマスへの転換も一つの選択肢であるとしている。また、石炭火力への依存度が高いインドネシアなどの新興国では、同社の高効率な発電所を閉鎖ではなく売却する考えである。